

週刊

学びのコミュニティ

第53号

平成22年6月8日発行



【報告】

今回は、Hatoba 企画 『第2回 洋画字幕翻訳コンテスト授賞式』の様子をお届けします。

5月27日(木)15時より、第2回洋画字幕翻訳コンテストの授賞式が開催された。今回も、第1回と同様に第1部にトークセッション、第2部に授賞式が行われた。トークセッションでは、Hatobaを代表して総合科学部4年、的場一将君と特任助教光永雅子の日本語字幕を、欧米言語コースの森岡芳洋教授と山内暁彦准教授のお二人に批評していただいたり、参加者に好みの字幕を挙手で求めたりしながら、非常に和やかで、かつ知的好



奇心を刺激しながらの進行となった。そしていよいよ第2部。審査

対象となった3シーンからそれぞれ得票の高かった日本語訳から1~3位、また特別賞としてHatoba賞を設け、表彰と受賞作品の鑑賞を行った。審査員長の森岡先生からは的確で、かつ心やさしいコメントをいただき、受賞者からは喜びの言葉が述べられた。

私自信、第1回、第2回と字幕作りに挑戦して非常にいい経験になった。何と云っても、限られた条件(字数など)の中で、いかに冴えた表現を見つけるのが難しい。登場人物のキャラクターをよく観察し、そのキャラクターが発する言葉を探さなくてはならない。どうしても“自分だったら…”にとらわれてしまう。想像力、表現力はもとより、

冷静な観察力も重要だと気づいた。

さて、この取組みの素晴らしさは、企画から広報、欧米言語コースの先生方への審査の依頼やその後のフォロー、当日の進行まで、全て学生自身の手で進められたことである。その努力と行動力は本当に目を見張るものがあった。この熱意があったからこそ、先生方は協力を惜しまなかったのだろうし、その努力の結実が、受賞者のコメントに現れていたように思う。

このHatobaという学生の自主活動は、上記のコンテスト以外にも、地域の社会人や教員を巻き込んで勉強会などを行っている。やはり、学生が中心となって行う活動はいきいきとして、参加者の意気が自然にあがるようである。大学生だからこそできる、研究や興味のあるものへの自由な発想とアプローチをもってこのような活動を続けていくことは、他では得難い経験となって、おそらくこれからの人生の折々に顔をのぞかせてくれることだろう。



ぜひ、Hatobaの活動に社会人のみなさまも参加してみてください。わくわくとした気持ちをもう一度発見できること請け合いです！そして学生のみなさん、第2、第3の企画にチャレンジしてみませんか！学生支援室で待っています。

(文責：光永 雅子)



発表!! 受賞者のみなさん

👑 第1位 総合科学部1年 林田 早紀さん



“ずっと好きだった英語が嫌いになり掛け、離れようと思っていたところ、先生から配布された応募用紙が目にとまった。

「宿命」という言葉は、自分のイメージを友だちが形にしてくれたので、この賞の半分はその友だちにあげたい。受賞の連絡をもらったときには、外なのに「本当ですか?!」と叫んでいた。

この機会がなかったら、本当に英語から離れていたかも。私の運命を変えてくれて、感謝している。”

と、素敵なエピソードを明かしてくれた林田さん。

👑 第2位 歯学部1年 野田 千織さん



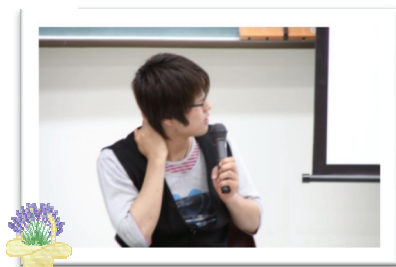
“字幕の翻訳は高校生の時から懂っていたので、このような機会に恵まれ、

また、受賞することも出来て幸せに思う。”

と、懂れが形になった喜びを笑顔で

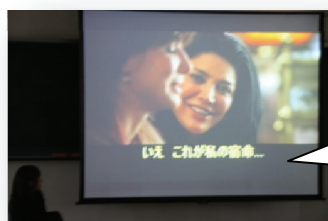
語ってくれた野田さん。

👑 Hatoba 賞 総合科学部1年 朝山 久くん



“〆切10分前に出来上がり、乱暴な訳だと思っていたが、今日改めて見たら、我ながら良く出来ていた。”

との朝山くんのコメントに、会場が笑いに包まれた。



受賞者の作った訳が、実際に字幕になってスクリーンに映し出されました。

受賞者にとっては感慨深い瞬間…

思わず作品に引き込まれます。

～編集後記～

ちなみに…第3位は、私、境が頂きました！実は、学生時代から英語は苦手で、英語と聞いただけで萎縮してしまう方…ですから、受賞の報告をいただいて非常に驚きましたが、同時に大変光栄に思いました。前後の会話との流れや、字数制限を考えながら字幕をつけていく作業は難しかったですが、楽しくもあり、英語が少し好きになりました。私と同じように、英語なんて…と思っているみなさんにぜひ参加していただきたいです。(境)